



一里塚

無所属
久喜市議会議員

田村栄子

討議資料
2020年令和2年11月

第46号

久喜市議会
会派フェニックス

連絡所〒349-1117 久喜市南栗橋 5-11-7 TEL 0480-52-8240 FAX 0480-55-1124
https://ameblo.jp/tamura-eiko-kuki/ http://tamura-ek2.matrix.jp/

田村栄子
久喜市議会議員
総務財政市民常任委員会・
予算決算常任委員会・広報
委員会の各副委員長、ICT
委員、静桜里親の会会長
久喜市放課後子ども教室
(栗橋南小) 実施委員
大阪府豊中市出身 武庫川
女子大学卒業 同大学助手
大妻女子大学講師歴任
南カリフォルニア大学研修

朝夕の寒暖差が大きい季節になりました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。新型コロナウイルス感染症が収束しないなかでの9月議会が開催されました。今回も前回と同じように衛生に配慮し「密」にならないように隣同士に透明のパネルを設け、半数の議員は議員控え室でタブレット端末を見て参加しました。午前と午後半数が入れ替わり、マスク着用は議場でも励行しました。壇上で議員各自の質疑が終わる毎に、アルコール消毒布で机や椅子を拭きました。換気のため議場の窓・扉を開けて無事終了しました。

感染症と自然災害の複合災害に対する対策はどうか

自然災害は不意に襲ってきます。新型コロナ等伝染病が蔓延しているとき起こるかも知れません。両方同時の複合災害に備えが必要です。市はハザードマップでとにかく災害時は「自分の命を自分で守る」を言い続けています。市はそのために必要な課題を解決すべきです。このため田村栄子は本年9月議会一般質問をしました。

* 豪雨等の災害時、新型コロナ禍の下では避難所収容人数が少なく制限されるため、多くの人は早期避難が必要。道路渋滞の問題が生ずる、特に栗橋から西方面へ向かう道路の確保と拡幅整備が必要と主張しました。

これに対する市の回答は、拡幅工事中の全長950mの佐間・八甫線は430mが完成し残りを令和3年3月までに完成する予定、でした。是非とも予定通りの完成を望みます。

* 栗橋地区内の避難所である小・中学校は遠くへの避難が難しい避難弱者のために残しておくべきですが、それにしても入口の混雑、アプローチの道路の渋滞などの問題があります。また隣接道路の傷み、ぬかるみがありますので修復が必要です。市の回答は、避難者はできるだけ徒歩で行って頂くこと、東中の道路未舗装の部分は極力安全が確保できるように努める、とのことでした。道路は安全のため今のうちに整備すべきと思います。

* 本紙裏面に複合災害時の防災対策の諸課題について、議会質問した内容を記しました。ご参照下さい。



栗橋東中裏門側(西側)道路・凸凹も多く道路境界も崩れています。自転車通学路としても安全のため早期の整備を。

避難所周辺の道路は安全通行のため早期の整備を！

環境問題について-プラスチックごみ-

レジ袋有料化によるプラごみ減量効果は月当り約9t

* 令和2年9月議会でも田村栄子の質問に対し、市はレジ袋有料化によって1カ月当り9.35tの削減効果があったと回答しました。今後も減量促進をすべきです。

* 新ごみ処理施設整備基本計画ではプラスチックごみを分別しないで全量焼却する方針です。分別回収の経費削減、市民の分別の手間を減らす、熱を発電に利用という説明です。プラごみを全て燃やすことで二酸化炭素は増加しますが、燃焼熱の電気への変換は二酸化炭素の実質減少につながります。しかし実際にそうなるのかは発電で派生する問題等によるマイナス効果まで含めて予測し、環境対策に逆行しないよう慎重に判断すべきです。

久喜市内の新型コロナウイルス感染者(陽性者累計)は少しずつ増えており10月27日時点で58人です。

日常生活でマスクをしている限り罹患は抑えられると言われています。しかし食事など、どうしても外さなければならない場面もあります。

PCR検査を皆が受けることができ、陰性がはっきりすれば日常生活も楽になるのではないのでしょうか。早く誰でもPCR検査を受けられるようにすべきです。保健所のない久喜市は、病院、医院等の多くの医療機関でPCR検査が受けられるようにすべきです。



済生会栗橋病院の加須市への移転問題 令和4年4月以降加須市に移転 跡地に診療所や病院の誘致を願う

(令和2年9月久喜市議会田村栄子の一般質問に対する市の回答より)

済生会栗橋病院は加須市へ移転予定で、建設中の建物は令和4年3月頃完成し、移転に1~2ヵ月要するとの回答でした。

栗橋地区住民の関心事は、病院移転後は医療過疎地帯となるので、跡地への外来機能や救急機能を有する病院や診療所等の誘致であり、切望されます。この点については病院長が民間の医療機関に打診中で未だ継続調整の段階であるとの回答でした。(意見)できるだけ早期に跡地への医療機関の誘致を望む、また跡地へ来る医療機関に対しては、地元栗橋のポトピア協力金で支援するなどの優遇措置も考慮すべきです。

感染症拡大対策で引き続き注意を

感染症対策で自分たちでできることは、3密を避け人と人の距離をあけ、マスクと手洗い励行です。窓のない部屋では扉を全開して扇風機などにより空気をまわしますが、窓を開け汚れた空気を外へ出すことが必要です。

感染から身を守るには

三密を避けましょう

密接：接触(握手、ハグなど)避ける

密集：数人以上で近接した集まりを避ける

密閉：換気(扇風機、エアコン使用中でも窓を開けるなど)

手の消毒 マスクの着用

久喜市の令和2年9月定例議会が8月31日~9月30日に行われました。市の諸課題解決のため全力で頑張ります。

暮らしと政治を結びます！

ご意見を賜ります。皆様からの貴重な叱責・ご意見を頂き誠にありがとうございます。



田村栄子の議会質問

一部抜粋 構成

議会では、毎回皆様の声を代弁して質問しています。市民の元気につながる質問をしていきたいと考えます。「こんなこと聞いて欲しい」という方はお知らせ下さい。



令和2年9月議会（8月31日～9月30日）に行われました。田村栄子の一般質問（9月4日）と市回答の内容です。

新型コロナウイルス拡大のさらなる備えは

新型コロナウイルス感染症は未だ収束せず感染者数も少しずつ増えており、インフルエンザとの同時流行も心配される。

（問）久喜市の感染者累計、現在の陽性者数はどのようか。

（答）PCR検査の結果、8月27日時点で感染者数（累計）36名、退院者31名、入院中5名。（なお10月1日現在で感染者累計54名、退院44名、入院中10名）依然として予断は許されない。

（問）新型コロナウイルス感染者の風評被害が心配である。

（答）感染者の発生情報の公表は個人情報特定されないよう配慮している。

（問）新型コロナウイルス感染症快復後の後遺症が心配されるがどうか。

（答）快復後の後遺症については市は調査していないが、国が2000人を対象に来年3月まで行うので、実態が分かると思う。（意見）快復後の後遺症が問題視されている。今後十分注視すべきである。

（問）市の貸し出し施設で窓が開かず換気が悪い部屋は定員が抑えられている。この解決には換気窓を設けることが必要。

例えば、栗橋コミセンくぶのホール。

（答）窓が開けられない部屋は市内で8施設13部屋ある。複数の扉を開け、扇風機・空調機能で換気を行っている。

（意見）換気用の窓を新たに設けるなど改善が必要である。

済生会栗橋病院の移転問題

済生会栗橋病院の移転とその後について関連質問を行った。（問）病院の加増市への移転の時期は。

（答）加増市への移転の時期は当初令和3年10月の予定が変更、令和4年3月建物完成を目安とし、移転に1-2ヵ月要する。

（問）移転後の地域医療のための跡地利用が必要、どのようか。

（答）済生会栗橋病院は地域医療に貢献できるよう、外来・救急機能を有する医療機関の誘致について調整している、ことを確認した。（朝日新聞朝刊令和2（2020）年9月5日付に本内容が掲載された。）

（問）跡地に次ぎの病院や医院が来たときに、初期費用等を久喜市は支援すべきではないか。栗橋のポートピア協力が久喜市に入ってきているので、地域医療の充実のために使えるはずである。

（答）支援については今後進捗のなかで判断していく。

（意見）跡地について医療機関誘致を市は積極的に進めるべき。

複合災害に対する防災対策は

新型コロナウイルス感染症が蔓延しているなかで台風豪雨を伴う複合災害が発生したとき、「自分の命を自分で守る」ために市も市民も備えを十分にしておくことが必要。

利根川の決壊を想定したとき、栗橋地区はほとんどの家屋が浸水を避けられないとされている。また、鷲宮地区も高層建築以外、戸建ては浸水が予想される。他方、避難所収容人数は制限され、住民各自の早期の広域避難が必要になる。多くの人が自家用車で避難を行うと考えられるが道路の問題も出てくる。

（問）栗橋地区から西方面に避難する場合、利用できる道路が少ない。佐間・八甫線は重要道路の進捗状況はどうか。

（答）【稲荷橋】掛け替工事と186mの造成工事を実施中。令和3年3月までに完成予定。佐間・八甫線全長950mのうち430mの区間の造成が完了している。

（問）栗橋東中の避難所は正門が狭く混雑していた。裏門は道幅が狭くしかもぬかるんでおり入りにくい状況。改善を要する。

西小は避難時に道路が渋滞。改善必要。

（答）避難所は駐車スペースもないことから近くの避難所は徒歩で行かれることを奨励する。東中は部分的に舗装幅が狭く路肩が未舗装箇所もあるので、今後安全な通行が確保できるように努める。

（問）避難所収容人数はコロナ禍・水害時は制限され、栗橋地区の小・中・高校は地区住民の1割の容量しかない。早期の広域避難をPRし、避難弱者のために空けておくべき。いかがか。

（答）避難の仕方については早期の広域避難をお願いしたい。安全確保の上、避難所以外に分散避難、車中泊、テント泊、在宅避難、等複数の方法を市HPや市広報で今後も周知に繋げたい。

（問）避難所に集合したとき、避難者のバスによる移送が想定されているが、感染3密対策で定員数の大幅減の問題が起こるがどう対処するのか。

（答）交通手段のない高齢者の方々等を対象に避難所からバスで久喜総合体育館へ時間確保のため移送することを計画している。現実には水害が発生した場合はさらに状況に応じたさらなる移送を判断。バス乗車時にはマスク着用など衛生上の対策を配慮する。

（問）避難所開設への住民ボランティアの協力は。

（答）避難所では多くの人が共同生活することになるので、避難者を中心とした運営組織の設置が不可欠。避難者に協力を要請できるよう令和2年8月より運営マニュアルを改訂した。

（問）他市町との連携で古河市との相互応援協定を結んでいる、避難所開設など久喜市民の受け入れはどのようになるのか。

（答）被災者の一時受け入れを可能とする。避難所開設情報は古河市のホームページやテレビデータ放送でも確認できる。

（問）自主避難のために市は住民に「マイ・タイムライン」作成の奨励・作成手助けをすべき。いかがか。

（答）昨年栗橋地区で実施。要請があれば出張出前講座で対応。作成手順を市ホームページで公開中ご利用を。周知啓発する。

（問）自主避難の目的は「自分の命は自分で守る」である。浸水危険地域は「脱出を急げ」とハザード・マップに大書きすべきである。

（答）自主避難の周知、啓発を市HPや広報くき等で行っている。あらゆる機会を捉え継続的に周知啓発していく。

（問）災害時の避難に関し行政のリーダーシップが望まれる。市長の考えを伺う。

（答）市長）市民の命を守るために災害想定を見誤ることなく、自分自身先頭に立ち国や県等の関係機関と連携を強化し的確に情報発信を行い、避難行動を促して行く所存である。

（意見）行政側として全体的にさらに市民の立場に立った積極的な回答が欲しかった。自助の重さをさらに痛感させられた。

環境問題について

（問）プラスチックのごみ減量化と二酸化炭素排出削減が重要視されている。有料レジ袋の減量効果はどうか。

（答）有料化後、9.35t/月の削減とみている。

（問）回収されたペットボトルのリサイクル率は。

（答）100%である。マイボトルなどの活用を呼び掛け。

（問）ペットボトルキャップのリサイクル率はどうか。

海鳥が餌と間違え、キャップの収集とその後の処理は。

（答）容器包装リサイクル協会でもコース代替として利用中。

（問）二酸化炭素削減のため石炭火力100機廃止の政府方針である。市は削減にどう取り組むか。

（答）2018年9月の環境基本方針に基づき、温室効果ガス排出量を2013年度比で2030年度までに28%削減するよう取り組んでいる。公用車の低公害車導入や公共施設の照明のLED化推進等エネルギー消費削減に取り組んでいる。

暮らしと政治を結びます！